

# 令和7年度 社会福祉法人 百八会 事業報告

## 1 事業報告

社会福祉法人百八会は、地域から頼られ選ばれる魅力ある施設を目指し、基本理念に基づいた活動を行った。地域の行事に積極的に参加して地域住民との交流、地域のかとなり寄り添える活動を行った。

魅力ある施設には魅力ある人材の確保が不可欠であることから、職員一人ひとりがいきいきと働き、仕事を通じて成長できる職場環境づくりを目指し、各種研修やメンタルヘルス不調を未然に防ぐためのストレスチェック、ハラスメントアンケート、人事考課を実施した。法人全体で働き方改革に取り組み、魅力ある人材を育成することにより介護サービスの質の向上を図り、法人の発展並びに社会福祉事業の推進に努めた。

また、令和5年に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ移行されたが、入居者様、利用者様は重症化リスクが高い為、令和7年度も継続的に基本的な感染予防対策に努めた。他の感染症についても、拡大予防策を講じ継続的に取り組んだ。「感染症を持ち込まない・広げない」を常に念頭に置き、感染症の予防・蔓延防止に向けた取り組みを実施した。

## 2 概要

### (1) 組織

理事：9名      評議員：10名      監事：2名  
評議員選任解任委員：3名

### (2) 理事会開催状況

第1回 令和7年6月10日開催  
議案 令和6年度 事業報告  
令和6年度 決算報告  
理事の選任(案)について  
監事の選任(案)について  
評議員選任・解任委員選任の件  
次期評議員選任候補の推薦(案)について  
就業規則の一部改定(案)について  
東町デイサービスセンター休止について  
定時評議員会の招集の件  
理事長の職務執行状況について  
その他  
第2回 令和7年6月25日開催  
議案 理事長の選任(案)について

- 第3回 令和8年3月26日開催  
議案 令和8年度 事業計画書(案)について  
令和8年度 予算(案)について  
給与規程の変更について  
育児介護休業規程の変更について  
賞与に伴う借入金について  
東町デイサービスセンター閉鎖について  
理事長の職務執行状況及び理事長の専決事項について

(3) 評議員会開催状況

- 第1回 令和7年6月25日開催  
議案 令和6年度 事業報告について  
令和6年度 決算報告について  
理事の選任(案)について  
監事の選任(案)について  
その他

3 事業所

- ・ 特別養護老人ホーム シルバーピアさくら樹
- ・ シルバーピアさくら樹 短期入所生活介護事業所
- ・ シルバーピアさくら樹 通所介護事業所
- ・ シルバーピアさくら樹 訪問介護事業所
- ・ シルバーピアさくら樹 居宅介護支援事業所
- ・ シルバーピア東町 デイサービスセンター  
(令和3年1月12日開所)  
(令和8年3月31日閉鎖)

4 地域福祉の推進

令和7年度は地域のサロン、自治会等の地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流をもつことができた。ボランティアについては、踊りや歌、生花等の受け入れを再開した。また、地域の高校生(JRC)の活動受け入れを行った。そのほか地域の中学生、ボランティアの作品展示を行うなど、交流がもてる環境づくりに努めた。

・ 地域交流スペースの活用

シルバーピアさくら樹の地域交流スペースについては、地域への貸出やボランティアの演奏、作品展示をおこない、入居者様、利用者様と地域住民との交流に努めた。

東町デイサービス併設の地域交流スペースは、東町団地及び近隣地域の誰もが気軽に立ち寄れる、地域住民の共生・交流の場となることを目的として活動した。令和7年度は、センターの休止により3か月

間の活動となった。

・日本財団へ寄付

2017年より社会貢献型自動販売機「夢の貯金箱(日本財団)」を設置し、飲料1本につき10円を寄付している。  
令和7年度は14,900円を寄付した。  
寄附金は災害復興支援などに役立てられる。



## 5 広報

- (1) 令和7年度は、SNSでの広報活動を主におこない、「地域交流紙さくら樹」は休止した。令和6年度にとうや医療福祉グループでSNS企画委員会を立ち上げ、各病院、施設ごとで「Instagram」を開始している。さくら樹では施設やデイでの出来事や各事業所紹介、食事メニュー紹介、イベント紹介などを掲載しており、SNSを通じてさくら樹を知っていただけよう工夫した。
- (2) 法人運営の透明性確保のためインターネットを活用した。法人のホームページに定款、決算報告、役員報酬、広報紙など法人の情報を公表した。併せて処遇改善計画書の掲示も行っている。熊本市のホームページに現況報告書等を公表している。

## 6 施設内研修実績

実施月	研修内容(担当部署・委員会)
令和7年 4月	接遇(苦情・CS対策委員会)
5月	ハラスメント(労働安全衛生委員会)
6月	感染予防/食中毒(感染対策委員会)
7月	救急蘇生法・救急時対応(教育委員会)
8月	虐待・身体拘束(虐待防止・抑制廃止委員会)
9月	メンタルヘルス(労働安全衛生委員会)
10月	個人情報について(SNS企画委員会)
11月	感染予防・感染症・BCP(感染対策委員会)
12月	災害対策・BCP(災害対策委員会)
令和8年 1月	認知症(教育委員会)

2月	事故防止（安全対策委員会）
3月	各委員会の事業報告

※令和7年度は外部講師、内部講師、オンラインを組み合わせで開催した。研修後は参加者アンケートを行い、参加率や感想等をグループウェアにて報告した。オンライン研修は視聴後、感想文を提出することとした。

## 7 委員会の実施状況

会議などの名称	参加職員	実施状況	会議の内容
運営委員会	理事長、本部長、施設長、幹部職員	毎月第1木曜	各事業所の現状・問題点など
教育委員会	各部署代表	偶数月第1火曜	施設内外の教育・研修について協議、企画実施
安全対策委員会	本部長、施設長、各部署代表	偶数月第3木曜	ヒヤリハットの検証などについて
労働安全衛生委員会	施設長、各部署代表	毎月第1木曜	職員の労働・安全・健康に関する事項
災害対策委員会	施設長、各部署所属長、各部署代表	奇数月第3火曜日	防災計画、災害時マニュアルの整備、災害時の対応、消防訓練参加
感染対策委員会	施設長、各部署代表	毎月第3金曜日	感染症予防、発生時の感染拡大防止
福利厚生委員会	各部署代表	随時	職員の福利厚生について
苦情・CS委員会	施設長、各部署代表	毎月第3水曜日	サービス向上のための諸問題検討、解決。施設、職員への苦言・接遇・ご意見を取り上げる。再発防止策の検討・実施。
地域浸透プロジェクト委員会 ボランティア委員会	各部署代表	毎月第1火曜日	行事の企画実施・広報誌・ホームページ・展示・掲示物について ※必要時はボランティアについて
虐待防止・抑制廃止委員会	各部署代表	3ヶ月ごと 第3火曜日	個人の尊厳、身体拘束防止についての意義の確認、身体拘束廃止・防止についての取組みや事例報告。緊急時の対応等について意見交換・検討。
SNS企画委員会	各部署代表	随時	Instagramの企画。SNSでさくら樹の日常や行事などを発信。

## 令和7年度 特別養護老人ホームシルバーピアさくら樹事業報告

### 1 事業報告

令和7年度は、入居者様、職員の感染予防は継続し、面会は、週に1回15分程度で各自の部屋で実施することが出来た。その中で、私たちは社会福祉法人百八会の基本理念に基づいた個人の尊重を基本方針として、入居者様の新しい生活の仕方と健康管理に努め、日々安全で健康な生活を送れるよう援助し又、ケアの向上の為自己研鑽と多職種連携に努めた。

### 2 適切な生活支援

感染予防は継続しながら、適切な面会方法を取り、直接面会やタブレットを使ってのライン通話、又、遠距離や体調不良で面会のできないご家族には、写真をラインで送ったり電話にて現状をお伝えるなど、入居者様とご家族がお互いの存在を意識出来るように工夫した。又、快適な生活をしていただくために機械浴、移乗介護ロボット「ハグ」やスライディングボード「フレックスボード」導入後、適切にアセスメントし、機器を利用することに慣れることで入居者様も職員も移動や移乗が安心・安楽に出来るようになった。入居者様が更に安全・安心した環境でケアを受けることができるようになり、職員の腰痛予防にも効果があった。

入居者様の身体・生活状況を把握しながら感染予防につとめ、穏やかな日常生活が送れるように配慮した。

年間行事は、入居部レクリエーション委員会で企画を立て、季節にあった活動も盛り込んで行った。ユニット対抗のゲーム大会、足湯、秋祭り、餅つき、初詣、ひな祭り等、レクリエーションルームやベランダ等で楽しんでいただいた。

### 3 健康管理

令和7年度は25名の方が入院された。平均入院日数は28日で昨年より入院人数3名増加、入院日数は4日減少した。入院の理由としては、誤嚥性肺炎、尿路感染や血糖コントロール等であった。令和6年度より多かった誤嚥性肺炎の原因とその予防を考える必要がある。又、職員がコロナ感染症に罹患し入居者様に感染することがあり、1名入院となったが、日頃の基本的な感染予防対策が出来ていたためクラスターまではならなかった。健康診断は年2回実施しているが、胸部レントゲン、心電図検査については水前寺とうや病院からさくら樹へポータブル機器を持参して検査を行ったため、入居者様の負担を軽減することができた。入居者様お一人お一人の健康状態(食事量・水分量・排泄状況・睡眠等)の情報交換を密に行い、異常の早期発見に

努め、身体状況を判断し速やかに担当医と相談することが出来ており、的確な病院受診につなげることができた。

#### 4 入居者状況（令和8年3月31日現在）

- ① 入居者数 50名 男 13名 女 37名  
平均介護度・・・ 4.42（男性；4.23 女性；4.49）  
平均年齢・・・ 89.9歳（男性；87.7歳 女性；90.7歳）
- ② 新入居者 16名。  
男性 5名 女性 11名
- ③ 入居前の居住場所  
老健4名 有料老人ホーム7名 病院1名 自宅3名 特養1名
- ④ 退居者 14名  
令和7年度は14名中12名の方が施設にて看取りを希望された。
- ⑤ 受診の延べ回数・・・205回  
令和7年度も、発熱時はCOVID19・インフルエンザの抗原検査を施設内で実施し、その後、水前寺とうや病院を受診した。待ち時間を短縮することができ、早期の受診に努めることで入居者様の身体的な負担の軽減にもつながった。水前寺とうや病院への受診は39.0%、定期的に受診する必要があった皮膚科は36.6%、精神科は1.4%、その他に耳鼻科、眼科、外科を受診した。又、意識消失による緊急搬送が2件あった。
- ⑥ 入院の延べ人数・・・25名  
誤嚥性肺炎、尿路感染、血糖コントロールなどが入院理由だった。

#### 5 職員の状況

- ① 委員会活動への参加  
定期的にさくら樹全体の委員会、入居部の委員会を開催した。事前に議題や話し合いの内容を回覧するなど短時間で委員会が開催できるように工夫した。
- ② 研修参加  
施設外の研修は、オンライン研修が殆どだったが、施設内研修は外部講師を招いての研修とネット研修を併用して開催した。  
外部の研修になかなか参加できておらず、令和8年度は積極的な参加を促したい

## 6 一年間を通して

令和7年度も引き続きコロナ・インフルエンザ等の感染症予防に努めながらの一年であった。入居様様が感染症に罹患すること無くご家族と外出や自宅への外泊ができ、ご家族も大変喜ばれた。基本的な感染予防の成果があったと感じている。

その中で令和7年度は12名の方が施設にて看取りを行った。入居様・ご家族様が望まれる最期を迎えるために、ご家族同席のうえカンファレンスを行い、短期間ではあったが、毎日の直接面会をしていただくことができた。入居様、ご家族に少しでも寄り添うケアができるよう努めた。退去後、1週間から2週間程度で次の方に入居いただいている。

新入居については16名の方が自宅や有料老人ホーム等から入居された。新しい環境に1日でも早く馴染まれるよう日々のケアに努め、ご家族様には入居時の様子をLINEで知らせるなどの工夫で安心にもつながった。

正職員については、入職者1名、退職者1名だった。前年度長年務めた職員の退職が相次ぎ、未だ補充には至っておらず、派遣に頼っている状況である。紹介会社からの紹介は、雇用にかかる費用がかかるため、積極的には雇用しにくい状況である。今後は、隙間バイトの会社等も活用し、現場が円滑に回っていくように整備していく必要がある。また、ITC機器の導入と職場環境整備の重要性も次年度は取り組んでいかねばならない。今後、求職者に選んでもらえるよう、それぞれの専門性を追求できるような職種や職務形態を整備し、今後もより働きやすい職場風土作りと職員の質の向上に向けて努めていきたい。

## 7 ショートステイ 利用状況（令和7年度実績）

月	利用人数（延べ）	利用率（％）
4月	111	62
5月	130	70
6月	113	66
7月	135	73
8月	150	84
9月	140	78
10月	160	89
11月	145	81
12月	152	84
R7年1月	120	65
2月	127	76
3月	123	66
平均	134	75

ショートステイでも引き続き感染症予防の観点から送迎時の検温・消毒・換気の徹底、利用者様、ご家族にご利用前の生活状況等の情報収集に努めた。また、車1台に対し1名ずつの送迎やユニット内での座席の工夫（向かい合って座らない）を継続し感染防止に努めた。

令和6年度の年間延べ利用率72%に対し、令和7年度の年間延べ利用率は75%であり若干の増加が見られた。長期・定期利用の方の施設入居・死亡があり、月初めに予定していた利用数より大幅に減ることも多かった。日頃の居宅への営業の成果もあり、新規の利用者も増えつつある。利用者様の介護度も要介護3～5と上がっており、今後も急な入院や施設入居になる可能性がある。今後も、各居宅ケアマネジャーとの連携を図り、新規利用者様をご紹介いただくなど、利用につながるような良好な関係づくりに努めていきたい。

# 令和7年度 シルバーピアさくら樹 通所介護事業所 事業報告書

## 1 事業報告

介護保険法に基づき、通所介護事業の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、事業所の相談員、介護職員及び看護職員等が利用者の社会的孤立感の解消及び、心身機能の維持並びに利用者家族の身体的・精神的負担軽減を図る為、要介護状態または、要支援状態にある高齢者に対し、適正なサービスを提供した。

(営業日及び営業時間)

営業時間	月曜日～土曜日（但し12月31日～1月3日を除く）
サービス提供時間	午前9時15分～午後4時30分
利用定員	55名（令和7年7月1日より40名⇒55名）

## 2 事業内容

### (1) 生活支援

利用者の生活状況を把握し、指導・援助を実施。（家族や利用者間の調整、自立支援のための個別プログラム、利用日の調整など）

### (2) 機能訓練

利用者のADLの評価を行い、個々の身体状況に応じてプログラム内容を策定し実施した。またグループ活動におけるゲームや行事参加などに加えて運動療法、音楽療法も実施し職員と利用者の良好な人間関係を築けるような雰囲気づくりを心がけた。

### (3) 養護

1日の利用を通じ、利用者が安全かつ快適に過ごせるよう配慮し、食事・歩行・排泄の介助、利用者の自主性や積極性を自然に引き出せるよう人間関係づくりを心がけた。

### (4) 健康チェック

毎日の健康チェックは、血圧測定、体温測定、脈拍測定、パルスオキシメーター測定、排便コントロール、血糖測定や定期的な体重測定など、全身状態の把握を行い、利用者に異常があった場合は看護師による処置・適切な対応を行った。

### (5) 送迎

利用者宅の玄関からデイサービスの玄関まで(door to door)の送迎を安全に行った。

## (6) 入浴

利用者の身体状況と希望に応じて一般浴、個人浴、機械浴、清拭、足浴の対応を行い保清に努めた。また、皮膚状態の観察を行い異常の早期発見と対応に努めた。

## (7) 食事

個々の嗜好や健康状態に応じ、栄養の必要量をバランスよく盛り込み、行事食の企画や季節感あふれる献立（管理栄養士が作成）で、個人の咀嚼能力（刻み食、トロミ食、ソフト食など）に応じた対応ができた。また食事前の嚥下体操、食事後の口腔ケアも実施できた。管理栄養士との連携で栄養アセスメントを実施し、栄養に心掛けた

## (8) インフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症対策や対応を年間通し下記のことを実施した。

- ①施設到着後に手洗い
- ②手指のアルコール消毒（来設後・昼食前・水分補給前に実施）
- ③昼食前のテーブルの消毒と拭き上げ
- ④1日3回以上の換気（常時換気実施）
- ⑤1日3回の消毒（共有の物品）
- ⑥営業終了後に椅子やテーブルなどの消毒を実施
- ⑦加湿器や空気清浄機の設置

上記の他、令和元年12月初旬から職員は常時マスク着用を徹底し、利用者には送迎車内でマスク着用を徹底した。現在も利用者の利用時のマスクの着用を推奨している。

## 3 その他の活動や行事

### (1) 生活動作及び身体機能回復訓練を目的とした作業活動の企画と実施

#### ①生活動作/身体機能回復訓練

利用者ごとに個別に身体機能を評価・訓練内容を策定し実施した。また令和7年7月より東町デイサービスセンターとの合併に伴い身体機能改善を目的とした運動療法機器（NUSTEP・アシストサイクル・バランスパッド・その他物理療法機器）の導入を行うことで要介護4-5の利用者も取り組める運動が提供可能となった。

また在宅生活における利用者のリハビリテーション目標を決定することで、「屋外歩行」といった抽象的目標ではなく、「自宅からバス停までの150mを目標にした屋外歩行」といった具体性のある目標の策定・運動の提供を行い、通所介護事業所でもより本格的な機能回復を目的とした運動を提供した。

②敬老会の開催・・・一年に一度の敬老会に長寿のお祝いとして賀寿対象者には各自賞状を贈呈し、催しとして、田中祥子先生にお願いして、教室の皆様による民謡などを披露していただいた。

③レクレーション・・・伝承遊び、ゲーム、脳トレ、早口言葉を実施  
身体と心を動かす内容で、大人数型デイサービスの長所を最大限に生かした。また、各自でレク活動を選択できるように、塗り絵や書道、脳トレプリントなどを準備し、退屈を与えないように、全体を巻き込む工夫をすることで、廃用症候群予防に繋がった。

④カラオケ・・・今期より、新カラオケマシーンを投入し、多機能型として、音楽療法だけではなく、運動支援や体操、脳トレ、クイズ、映画、音楽鑑賞など盛りだくさんに提供。また、カラオケでは人生の源、生きる希望、歌詞の共感を通してタイムスリップし、自分の人生を振り返る機会（回帰法）を提供した。また肺活動と発声練習で嚥下効果も期待できるように努めた。

## (2) カルチャー

絵手紙教室として、月に2回講師を招き、みんなで楽しく作成できた。教室も3年目に入り、各自の腕前も上がり、本人はもちろん、ご家族からの評価も高い。完成した作品は玄関前に張り出し、来客者やご家族、関係者からも「楽しみに拝見しています」という声があがっている。(書道展も同時に張り出し)

## (3) ボランティアの受け入れ

ボランティアの受け入れを開始し、日舞・琵琶や三味線・オカリナ演奏・ギター演奏・フラダンス・手話ダンス・書道の作品指導に来ていただいた。

## (4) 地域支援

内容：近隣の地域で行われている高齢者のサロンや老人会へ参加し、血圧測定や健康相談、ゲームやレクリエーション、健康体操等を実施し地域との交流に努める。(えのき町ふれあいサロンと健軍東校区サロン山ノ内2町内、山ノ内3町内に参加)

また、今年度は昨年に引き続き、県立大学の学生と当通所介護事業所の交流として学生発案の「青春繋輪」という企画を4月～6月に合同開催。東陵高校のボランティア活動を主として、高齢者と互いにできることを

目的に、e-スポーツ大会や紙粘土を使用し、あじさいの花の作品作り、トランプ、お手玉などを一緒に楽しむことができた。この企画は9月18日に社会福祉協議会主催の「令和7年度東区ふれあい・いきいきサロン研修会&大会」に登壇者として「高齢者と高校生を繋ぐ輪」をテーマに発表している。地域、高齢者施設の関わりの成功例として、高い評価を得ることができた。

#### 4 利用者の動向

##### (1) 登録者内訳（令和8年3月31日現在）

###### ①利用者数(名)

	予防	介護	計
男性	3	35	38
女性	15	49	64
合計	18	84	102

###### 休み

入院/入所	6
自宅療養	2
計(名)	

※3月登録者数 110名

※令和8年3月31日の登録者数 110名（R7年度は77名）。

そのうち8名が入院や老健施設を利用されており、実績は102名であった。

###### ②年齢

年齢(歳)	58～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	合計
人数(名)	2	1	6	10	21	26	36	102

平均年齢：85.8歳  
男性：83.9歳 女性：86.9歳  
(R8.3.31現在)

平均年齢：86.7歳  
男性：82.7歳 女性：88.5歳  
(R7.4.1～R7.3.31)

###### ③世帯構成

同居	独居	有料老人ホーム
86	18	6

計 110名

###### ④要介護度

介護度	人数	計
要支援1	4	計 18
要支援2	14	

平均介護度：1.76  
男性：2.08 女性 1.57  
(R8.3.31現在)

要介護 1	31	計 84
要介護 2	31	
要介護 3	12	
要介護 4	6	
要介護 5	4	

平均介護度 : 1.73
男性 : 1.97 女性 1.62
(R7. 4. 1~R8. 3. 31)

合計 102 名 (R8/3 実績者)

※平均年齢は昨年より 0.9 歳減少。平均介護度は 1.73→1.76 でほぼ変わらない。  
介護 4~5 の方の利用は昨年と比べ、利用者数 (122⇒124 名)、回数 (1245⇒1,476 件) と利用者の増加とともに、一人当たりの回数は増えている。  
引き続き、新規の要介護者や中重度の利用者の受け入れを継続していく。

計 30⇒33 事業所

クラウド	ケアハウスプランのあ	ケアプラン TIME
ケアプランセンターこころ	ヴィラ長嶺	ささえりあ江津湖 包括
在宅 S T 水前寺	居宅なかむら	看護協会くまもと
熊本ケアネットワーク	秋津居宅	はあとふる
セントケア熊本駅前	レモン	居宅オリーブ
シルバーピアさくら樹	あさひば 包括	ささえりあ尾ノ上 包括
たくまだい熊本	八王子の杜	
クローバー (新規)	西日本ケアセンター (新規)	わかば (新規)
ハーモニー (新規)	みどりの樹 (新規)	みゆきの里 (新規)
白川の里 (新規)	あやの里 (新規)	すずめ (新規)
あかね色 (新規)	心晴 (新規)	湧心苑 (新規)
熊本ケアプランセンター (終了)	ヒルサイドガーデン大樹 (終了)	アヤメ (終了)
医師会在宅ケアワーク (終了)	なでしこ (終了)	ケアベース Cruto (終了)
ヴィーブル (終了)	Let`s ケアプラン! 熊本東	Let`s ケアプラン! 熊本北

\* 新規の事業所との契約が 12 件、終了の事業所が 9 件あった。  
終了の事業所は、利用者の入院や入所、死去等によるものであった。

(2) 年間利用者 R7 年 4 月~R8 年 3 月

①月別利用者(件)

介護度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	自費	計
4 月	20	39	275	214	44	63	36	0	691
5 月	17	48	277	231	42	54	39	0	708
6 月	20	52	296	213	48	47	43	0	719

7月	30	113	423	366	96	80	39	0	1,147
8月	26	93	392	331	69	75	33	0	1,019
9月	20	105	374	343	60	84	38	0	1,024
10月	16	121	370	358	90	111	50	0	1,116
11月	20	106	336	333	98	95	46	0	1,034
12月	19	97	329	371	82	105	42	0	1,045
1月	19	85	279	313	93	88	47	0	924
2月	15	85	265	255	103	87	43	0	853
3月	15	90	273	271	121	90	41	0	901
合計	237	1,034	3,889	3,599	946	979	497	0	11,181
平均	19.8	86.2	324.1	299.9	78.8	81.6	41.4	0	931.8

○年間利用者 R7年4月～R8年3月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R7年	691	708	719	1147	1019	1024	1116	1034	1045	924	853	901
平均	26.6	26.2	28.8	42.5	39.2	39.4	41.3	41.4	38.7	38.5	35.5	34.6
R6年	717	742	752	669	736	725	778	763	704	624	609	642
R5年	786	788	729	703	710	711	768	725	713	664	722	743
R4年	929	912	929	848	831	810	900	886	779	742	771	826
R3年	994	1000	1028	1108	1014	1028	1044	1004	1010	879	851	946
R2年	970	916	980	1042	952	947	1,058	1,028	1064	983	994	1072
R1年	970	958	875	859	927	906	1,052	1032	990	990	985	993
30年	892	956	891	887	937	956	1083	970	878	762	789	908

- \*R7年度 11,181件 平均931.7件 (稼働日310日)
- \*R6年度 8461件 平均705件 (稼働日309日)
- \*R5年度 8,762件 平均730件 (稼働日310日)
- \*R4年度 10,163件 平均846.9件 (稼働日309日：台風の為1日休業)
- \*R3年度 11,907件 平均992.3件 (稼働日310日)
- \*R2年度 12,006件 平均1,000.5件 (稼働日309日：台風の為1日休業)
- \*R1年度 11,537件 平均961.4件 (稼働日311日)

②月別利用者(名)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
4月	5	6	28	21	5	6	3	74
5月	5	6	29	23	4	5	3	75
6月	5	8	31	23	6	5	4	82
7月	8	16	42	38	10	7	4	125

8月	7	15	41	35	11	5	4	118
9月	5	15	38	35	7	6	4	110
10月	4	15	37	36	10	8	5	115
11月	5	15	35	37	11	7	5	115
12月	5	14	33	40	10	8	4	114
1月	5	12	30	36	10	7	4	104
2月	4	13	29	33	11	6	4	100
3月	4	14	31	31	12	6	4	102
合計	62	149	404	388	107	76	48	1,234
平均	5.2	12.4	33.7	32.3	8.9	6.3	4	102.8

○新規・終了

7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	7	2	4	4	1	0	3	2	1	0	4	4	32
終了	2	1	0	2	8	3	1	3	6	3	4	0	33

- \* R7年度 平均で新規 2.7 件、終了・中止者 2.8 件
- R6年度 平均で新規 2.6 件 終了・中止者 3.4 件
- R5年度 平均で新規 2.6 件、終了・中止者 4 件
- R4年度 平均で新規 2.2 件、終了・中止 2.8 件。
- R3年度 平均で新規 2 件、終了・中止 2.5 件。

\* 令和7年度は月目標 1,000 件、1日 50 件（稼働日 26 日計算）を目標とした。残念ながら、月の実績目標は 932 件、月のご利用者の年間平均は 36 件で目標達成とはならなかった。

（令和6年度の年間平均は 27 件）

令和7年度の新規は 32 名、令和6年度も 32 名と同等。また終了者は昨年 41 名から今期 33 名と減少しているものの、終了者と新規獲得の人数がほぼ変わらなかった。

中止理由は次の通り。死亡 8 名、施設入所 13 名、長期入院 5 名、他のデイ 5 名、自宅がいい 2 名。サービス中止者の中で復帰者は 2 名であった。

\* R7年度、7月よりシルバーピアさくら樹とシルバーピア東町と統合しリニューアルオープンし、リハビリテーション内容や、より快適に過ごせる環境に生まれ変わりました。具体的な内容や以下の通り

- ①個別リハビリの強化（パワーリハビリ、マシンを使用した持久力運動、滑車運動、下肢の関節運動、起立バランス練習など）
- ②充実した物理療法機器（温熱療法、空気圧マッサージ、足底マッサージ）

- ③広々とした自由な空間を提供するために、ソファ増設。
- ④快適な入浴を提供するための脱衣所の改装
- ⑤新・カラオケマシンの導入。

## 5 令和7年度年間行事

	行 事	行事食及び特別献立
4月	・庭で花見会	・行事食
5月	・菖蒲湯 5/5	・行事食
6月	・合同に向けての準備	・行事食
7月	・リニューアルオープン	・七夕食 7/6
8月	・リハビリ強化週間	・行事食
9月	・敬老会 9/16	・祝敬老食 9/16
10月	・体育の日、体力測定	・行事食
11月	・桜木中学校ナイストライ	・行事食
12月	・新年に向けた絵馬づくり	
令和5年 1月	・新年、祝いの舞	・祝新年食 1/4
2月	・節分 2/3	・行事食
3月	・ひな祭り	・ちらし寿司 3/3

## 6 職員（新人）内部研修（第3水曜日）

4月	接遇研修会～尊厳を重んじる職場に～
5月	ハラスメント研修会～～共に考え、行動するために～
6月	感染予防・食中毒～シャットアウト食中毒～
7月	救急蘇生法・救急時対応
8月	高齢者権利擁護を巡る状況～高齢者虐待の状況と分析～
9月	メンタルヘルス
10月	個人情報保護法について

1 1月	感染症について・感染症 BCP
1 2月	災害対策について (BCP)
令和7年 1月	認知症対応
2月	アクシデント・ヒヤリハットについて
3月	予備月

\* 専門職としての資質向上と、より良いサービスの提供を目指し、職員の連携を大切にした研修会議を行う予定であったが、新型コロナの影響で自主学習に変更を行った。また、会議も中止や縮小を行った。施設内研修や外部研修も中止や積極的な参加が出来なかった。また、必要に応じて業務の見直しも行った。

#### 7 地域行事・サロン

山ノ内2町内ふれあいサロン	第4月曜日参加
えのき町ふれあいサロン	第3木曜日参加
健軍東ふれあい交流サロン	第3水曜日参加
山ノ内3町内ふれあいサロン	第4木曜日参加

#### 8 まとめ・総括 (次年度に向けて)

令和8年度の目標は下記の通りとする。

基本の大項目3つに加え、④その他の項目を目標とする。

##### 年間目標 大項目

① 1日利用者平均40名 = 月間延べ利用者数1040名/月  
(40人 × 26日)

② 組織的活動  
(報告/連絡/相談) + (確認)

③ 接遇改善  
(利用者への接遇/スタッフ間への接遇/思いやりある発言)

## ① 1日利用者平均40名 = 月間延べ利用者数1040名/月

	目標に対して、どのような活動を行うか
管理者 (主任含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2-4回以上の営業活動の実施</li> <li>⇒チラシ作成 (成果報告含む)</li> <li>⇒同グループ内への報告、サービス内容の告知</li> <li>特にグループ内から引き継いだ利用者の状況の報告などを定期で行うなども十分アピールになる。</li> </ul>
相談員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔の見える連携、訪問・電話連絡</li> <li>⇒業務時間の中で、営業活動の実施 (居宅・地域・グループ内)</li> <li>⇒グループ内病院におけるMSWや病棟師長との面識も広げたい</li> </ul>
看護師/介護士/介護福祉士	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師においては居宅/訪問看護等、他事業所との連携や情報共有</li> <li>・同グループ内情報のシェアの徹底・電話等、直接の情報収集・提供</li> <li>・質の高い介護を目指す (介護士⇒介護福祉士の免許取得など)</li> </ul>

## ②組織的活動 (報告/連絡/相談) + (確認)

### ●当事業所における組織的活動とは？

- ・報告/連絡/相談の徹底
- ・報告対象者の明確化
- ・業務を重複した際の優先順位の確認

### ・(確認)とは

⇒不確定な情報をもとに、**推測で話をしない・噂にしない。**

⇒(確認)が取れてない内容を噂にしても、何も成立しない。

⇒推測で行う話は、推測でしかない。(確認)が取れてから正式に情報として話す。

## ③接遇改善 (利用者への接遇/思いやりある発言)

### ●利用者への接遇

- ・距離感の設定：**サービスを提供する側/受ける側の立場**
- ・対象となる利用者は金銭を発生させていることを忘れない。
- ・距離感が近くなると、利用者からも変な要望が出やすくなる。スタッフを選び出す。
- ・スタッフが負担になるような要望を**距離感が近すぎることで発生させないようにする。**
- ・介護が必要な対象 (言葉は悪いが社会的弱者) であること。
- ・「がんばれ」「できるようにならないと」発言に注意。意欲改善のための鼓舞とは意味合いが違う。必要な声掛けを適切な場面で。
- ・ないとは思いますが、**利用者をあだ名やちゃん付けで呼ぶ⇒やめてください。**
- ・個人情報を取り扱う⇒要注意。利用者の前で**他の利用者の情報を出さない** (紙・言葉)

#### ④その他

##### 1) 感染対策の見直し/発生時の対応内容の修正

感染症発生時の見直しを行い適切な対応および情報の共有を行う。

共有方法はグループライン・グループセッションを活用し既存の連絡方法からは脱却。書面の対応から電子化へ移行する。

また、BCP策定に準じ感染症発生・拡大時の手順は全職員が共通した認識で稼働できるようにする。

その他、他部署への情報提供・共有等を行うものとする。

##### 2) 業務効率の改善・生産性の向上

令和7年度までの部分的な介護支援ソフトの活用から全面的に電子媒体へ移行する。具体的には業務実績/日報の作成/介護ケア実施記録/インシデント・アクシデントレポート等、スタッフ・PC間で共通できるものへ移行する。

また文書作成や一部の報告書作成には生成AIの活用も検討する。

##### 3) マニュアルの改訂・追加

運営指導上、必須であるマニュアルについての定期的な見直し・変更時の修正および業務上で発生する項目のマニュアル化を行う。具体的には研修報告書の作成方法・研修動画視聴の方法・AI活用方法・感染症発生時の対応・学生指導による項目など。

加えて新規スタッフの採用に伴う新人教育の項目選別・教材の使用・マニュアル化を行う。

##### 4) 業務項目の明確化

通所介護事業所における介護福祉士・介護士の業務を明確化し人材配置の適正を図る。具体的には人事考課を行う際、PDCAサイクルを意識した面談・期待する業務内容の伝達・苦手分野の確認と対策を行い人事考課シートにおける個人目標とD○項目を明確にする。

## 令和7年度 シルバーピアさくら樹訪問介護事業所 事業報告

### 1 事業報告

基本理念を基に利用者が安心して自分らしく生活していただける環境の提供を目指し、多職種・地域との連携をとりながら事業推進を図った。また、地域に根ざした幅広いサービスの提供と法人施設全体のスケールメリットを生かした事業展開を行った。

- (1) 利用者本位で、尊厳のある生活を守り、自立を目指した。  
(ADLの維持・向上と高いQOLの実現)
- (2) 日々健康な生活を維持できるよう健康管理に努めた。
- (3) 保険・福祉・医療の各関係機関との連携を密にし、サービス提供責任者と訪問介護職員のサービスの質の向上を図った。
- (4) 専門職としての自覚をもち、自己研鑽に励み、理想的な裏付けに基づいたサービスの方法・技術の向上に努め、質の高いサービスが提供できる人材育成を目指した。
- (5) 利用者一人ひとりの嗜好に応じられるよう勉強し支援した。
- (6) 家事支援については、利用者の出来ないところの支援を行い、保有能力を活かせるよう支援した。
- (7) 営業日・営業時間及び休業日  
営業日 月曜日～土曜日  
営業時間 午前8時30分～午後5時  
休業日 年末年始(12/31～1/3)  
(\*いずれも原則として)

### 2 活動報告

研修会・リモートでの研修会・多職種連携会議に参加し、情報収集・情報共有をおこなう事で関連機関との連携を密にとりながら事業所の特色や地域に貢献する姿勢のアピールに努めた。

### 3 訪問介護員（登録ヘルパー）勉強会報告（登録ヘルパー14名）

- 4月 各自目標設定、法人の理念、訪問介護員の接遇
- 5月 個人情報
- 6月 感染予防、食中毒
- 7月 緊急時、救急時の対応
- 8月 虐待防止、身体拘束
- 9月 メンタルヘルス
- 10月 アクシデント、リスクマネジメント
- 11月 災害時、感染時の対応（BCP）
- 12月 認知症の理解と対応
- 1月 ハラスメント
- 2月 介護保険上、訪問介護員が出来ること出来ないこと
- 3月 各自の一年間の目標達成などの自己評価

### 4 研修会等参加のまとめ

月に一度、施設内での勉強会を行っている。

個別の質問に対してはその都度対応指導し技術・知識の向上に努めた。

施設内研修や個別研修はリモートにより各自知識の向上に努めた。

\* その他常勤職員によるミーティング・カンファレンス（不定期）

### 5 R7度 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総合	304	314	280	277	248	272
身体	42	39	40	52	49	51
複合	134	142	132	145	147	138
生活	169	167	196	232	201	197
自費	16	14	14	12	10	13
合計	665	676	662	718	655	671

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合	297	267	281	253	257	291
身体	50	42	47	47	29	41
複合	137	122	118	99	89	92
生活	190	180	214	200	210	189
自費	19	16	17	11	17	10
合計	693	627	677	610	602	623

## 6 まとめ

法人の感染症対策を基準とし、事業所独自の感染対策を継続しながらも各関連機関との連携を密にとり、利用者それぞれの状況に応じた対応を行い利用者の不利益にならず健全な在宅生活を守れるよう配慮した。

人員不足及び登録ヘルパーの高齢化に伴う働き控えの中、できる限り円滑な事業所運営が行えるよう努めた。

職員の神的肉体的な負担を軽減し、働きやすく働きがいのある職場作りを目指した。サービス内容・事務作業を無駄なく効率的に行えるよう業務の見直しを行った。

# 令和7年度 シルバーピアさくら樹居宅介護支援事業所 事業報告書

## 1 事業報告

### (1) ケアマネジメントの質の向上

- ・ 介護支援専門員の必須研修をはじめ、外部の研修にも積極的に参加する機会を作り各職員自己研鑽に励んだ。
- ・ 困難事例等のケースについては、週一回の居宅会議内や職員間で時間を図り事例検討会を実施。問題の明確化や対応方法などの検討を随時行い、情報の共有を図った。また、必要に応じて地域包括支援センターと協力し地域ケア会議に参加、援助技術の向上にも努めた。
- ・ 本年度も地域の他事業所と合同で年4回の研修会を企画し、地域全体の介護支援専門員の資質向上に努めた。

### (2) 地域包括等各関連機関との連携

- ・ 困難事例等を通し地域包括支援センターと協力し地域の中の課題を各事業所とのさらなる連携強化に努めた。
- ・ 入院や退院時に必要な情報を医療機関と共有し、適切なサービスの調整に繋げた。

### (3) 事業所の収入安定

- ・ ケアマネ担当件数の増加を目指し、紹介先である地域包括支援センターや医療機関にも営業等行い、困難事例なども積極的に受け入れた。
- ・ 特定事業所加算Ⅱを算定。特定事業所としての体制整備、ケアマネジメントの質の向上に努めた。

### (4) コンプライス意識の向上

- ・ 運営基準に基づき適切なケアマネジメント、請求業務を実施。法令遵守、介護支援専門員倫理綱領の遵守しサービスの提供を行った。
- ・ 厚生労働省からの介護保険最新情報や県、市からの情報収集に努め制度理解に努めた。高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現に向けて関係先と連携し支援を行った。

### (5) 営業日・営業時間及び営業しない日

営業日	月曜日～土曜日
営業時間	午前8時15分～午後5時
営業しない日	日曜日・祝祭日・年末年始(12/31～1/3)原則として

## 2 事業内容

- (1) 在宅介護に関する全般的な相談
- (2) 居宅サービス計画、予防サービス支援計画の作成

- ① 利用者へサービスの選択に必要な情報を提供
- ② 利用者を支援する上での課題の把握と利用者及び家族への説明
- ③ サービスの目標、達成時期を盛り込んだ居宅サービス計画の作成
- ④ サービス担当者会議の定期的開催、担当者との連絡調整
- ⑤ サービス計画書に対する利用者の同意
- ⑥ サービスの実施状況の把握と評価
- (3) 行政・地域包括支援センターとの連携
- (4) 医療・福祉との連携
- (5) 新しいサービス、施設等の情報収集
- (6) 医療・介護・福祉に関連した研修
- (7) 地域活動の支援（サロンへの参加、催事への協力や支援）

### 3 新規利用者紹介先

ささえりああさひば、ささえりあ尾ノ上、水前寺とうや病院、利用者家族、前利用者家族、職員家族、地域、他居宅事業所、要支援より要介護へ更新等  
 ※新規利用者(約 40 名):看護師ケアマネジャーが多数いる事業所として包括支援センターに認識していただき、看護師希望の紹介が今年も多かった。また、利用者の家族やその知人、また地域住民からの飛び込みや、サロンでの相談から利用につながるケースも今年度は多かった。

### 4 研修・会議報告

- (1) 事業所内の困難事例検討(毎月)
- (2) 他法人の運営する居宅介護支援事業所との共同事例検討(4回/年)
- (3) 自立支援型の地域ケア会議(オンライン)
- (4) 東区主任ケアマネジャー研修
- (5) ヤングケアラー・生活困窮者・障害・難病支援研修会
- (6) 熊本市東5包括研修会(オンライン)
- (7) ケアプラン(介護・予防)研修会(オンライン)
- (8) 主任ケアマネジャー更新条件研修(4回以上/年)
- (9) 地域包括ケアシステム研修(オンライン)
- (10) 業務継続計画セミナー(オンライン)
- (11) リスクマネジメント研修(オンライン)
- (12) 介護支援専門員実習受け入れ
- (13) 地域連携会(ミナサンカ)(災害対策)
- (14) 熊本市介護保険集団指導(オンライン)
- (15) 熊本市主催の介護予防研修(オンライン)

※その他施設内研修、ミーティング(1回/週)等も行っている。

## 5 利用者実績(比較)

R7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	17	15	16	16	17	18	20	22	25	25	23	22	236
要介護	138	130	130	127	124	129	129	131	132	145	132	130	1577
合計	155	145	146	143	141	147	149	153	157	170	155	152	1813
R6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	24	24	24	24	25	25	25	23	24	22	16	18	274
要介護	153	157	155	151	149	141	137	137	132	134	131	134	1711
合計	177	181	179	175	174	166	162	160	156	156	147	152	1985
R5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援	33	33	29	30	32	32	31	31	33	31	32	23	370
要介護	145	152	147	147	156	160	165	168	160	160	155	161	1876
合計	178	185	176	177	188	192	196	199	193	191	187	184	2246

### まとめ

職員の体調不良による働き方もあり、利用者の新規受け入れが積極的にです、実績件数が減少しているが、赤字計上にはなっていない。

ケアマネジャーの人数が安定していれば、利用者件数も安定して必ず数値は伸びることが今までの実績からわかる。当事業所のケアマネジャーも 50.60 代とベテランで知識と実力を十分持っている為それを活かして、新しく若い職員を育てていくことも目標の一つとして業務にあたる必要がある。

今後も行政・地域包括支援センター、関係事業者・病院等と良好な関係性を図り連携を強化し、新規利用者獲得に努め、法人やグループ事業所の発展に協力できるように努めていきたい。また、地域に根付いた法人として、地域催事にも積極的に参加して地域へ貢献できるようにしたい。